

年頭所感

140周年記念館 今春着工が決定 「学生ファースト」を一段と強化

学校法人渡辺学園理事長 菅谷 定彦

学園理事会など執行部が過去7年間強にわたり入念に検討を続けてきた140周年記念館の建設が、昨年11月21日の理事会で資金手当てを含め全会一致で承認された。十条門から入り、16号館のゲートをくぐった正面、旧中高F校舎と十条門に近いスペースに8階建てのA棟と1階建てのB棟を建設する。F校舎解体・準備工事の着工は本年2月、竣工は2年半後の2026年夏、建設は四社競合の結果、清水建設に決定した。

建設費はA・B棟合計で81億円。板橋、狭山校舎間の情報交流を高速化するための

10G・LAN敷設などの付帯工事を含めて91.6億円である。新棟建設は2020年春からの新型コロナ禍、2021年秋の東京オリンピックによる建設労働者不足、資材高騰で2度の延期。3度目の計画はウクライナ戦争直前2022年初頭から、入札で設計者に採用した石本建築事務所、学内の建設促進委員会委員長は理事長と間で入念な作業を開始。その当初案は建物だけで51億円だった。

しかしその後ウクライナ戦争の長期化と円安による資材の高騰、建設労働者不足が深刻さを増し昨年夏は64億円に上昇した。この間、

建設会社で残った清水、戸田両建設の試算は各113億円、116億円であったため、促進委員会、常務理事会、理事会で設計変更やむなしとの判断を固めた。石本建築との間でぎりぎりの折衝を重ね、81億円で内定。戸田の辞退で1社になった清水建設からは「81億円に近づけるよう精一杯努力する」と伝えられた。当初皆様にお示しした原案からの設計変更はA棟で①9階の多目的ホールを中止、8階建てに②外壁の縮減③CPS管理センター、女性未来研究所、ヒューマンライフ支援センターを現状に戻し、5階と8階の一部を大学生用の教育・学生スペースに変更。B棟は①2階建てを1階建てに縮小、アドミツションセンターを現状復帰②学生・生徒・教職員と3億4千6百万円の寄附を頂いた緑窓会、そして後援会、訪問客がカフェテリアの軽飲食をとりつつ懇談出来るスペースを広くとったなどである。

これにより当初案の①A棟6・7階のDX共同ラボの充実を含め、学生ファーストの強化②A棟1〜4階の博物館を十条門近くへ移転させるなどで内外に一段と開かれた学園とする記念館の目的も強化した。記念館の建設資金は「4つの改革」への教職員の協力もあって少子化など厳しい現状の中、学園が黒字を続け、私が理事長就任以来開始した長期安定債券の購入も加わって2022年度までで228億円に増えた純内部留保金を充当する。

(2023年12月18日記)



令和六年

未来を担う女性が求めるものに 応えるための変化を

東京家政大学・東京家政大学短期大学部学長 井上 俊哉

ここ数年、世界では大きな紛争が相次ぎ、国内では少子化が止まらず物価が高騰するなど、大きな変化が生じています。社会が大きく変わり女性が大学に求めるものも変わり始めています。大学は変化が起これにくい場所ですが、社会の要請、未来を担う女性が求めるものに応えるために、変化を恐れてはいられません。では、どのような方向を目指すべきなのか。

昨年10月、米国のクラウディア・ゴールディン博士が女性として初のノーベル経済学賞単独受賞者となったニュースが流れました。受賞理由と関連する著書『なぜ男女の賃金に格差があるのかー女性の生き方の経済学ー』（慶応義塾大学出版会）が簡単に入手できることを知り、大学が変わる方向へのヒントが得られないかと思ひ、さっそく読んでみました。アメリカにおける分析ですから、そのまますべて日本に当てはまらない部分もあり

ますが、大いに参考になると感じました。

日本より女性の地位が高いと思われがちなアメリカですが、glass ceiling(ガラスの天井)という言葉があるように、女性が社会で活躍しようとすると思えない天井にぶつかるところです。ゴールディン博士は、男女の年間収入(中央値で比較)の推移に注目しました。差は徐々に縮まっているとはいえ、大学を卒業した人々に関し、2018年度の時点でも男性100に対して女性は70をわずかに超える程度にすぎません。この賃金格差はなぜ生じるのか。一般的に指摘されるのは、人々が明示的あるいは暗黙の裡に持っている偏見(バイアス)や男女間での職業の違いなどですが、ゴールディン博士は膨大、多様なデータを駆使して、それらだけでは賃金格差を説明できないこと、重要な原因は他にあることを示します。そして、賃金格差を解消し女性が家庭とキャリアを両立させるための単純な解決策、万能の政策はないが、問題を知ること正しい方向に進むことができるかと私たちを勇気づけてくれるのです。女性だけでなく男性にも、とくに若い方にぜひ読んでいただきたい一冊でした。

私は若くはありませんが、東京家政大学をさらに良い大学にいくために今年も努力を続けます。

令和六年